

上毛新聞

館林・板倉
明和・千代田
邑楽

シヤトル

2018年
10月25日

きょうの紙面

全校児童総出で稲刈り(2)
生演奏が聴ける店(8、9)
発達障害児支援へ研修(12)

©上毛新聞社 2018年

愛犬しつけ教室 館林

「待て」を指示してみせる吉井さん

歩行や座れ、待て、伏せ

根気よく練習を



愛犬のしつけを実践で学ぼう。館林市は「飼い主のためのドッグトレーニング教室」を開いている。市役所周辺の館林城ゆめひろば(旧市役所東広場)や陽だまりの広場を会場に、飼い主と愛犬10組が真剣に取り組んでいる。教室は27日までの全5回。



リードの長さや持ち方をアドバイスする野本さん

1回目は飼い主だけが集まり、しつけで困っていることを確認。残りの4回は犬を同伴する。歩行のほか、座れ、待て、伏せの基礎訓練に取り組む。

大型犬と小型犬に分かれて実施した。小型犬はグループで歩行から伏せまで一通りの動きを行い、大型犬は1匹ずつ歩行と座れを中心に訓練した。

飼い主と犬が一緒に初訓練となった2回目の教室は、あいにくの雨。市役所玄関前を会場に

歩行訓練は子どもやお年寄りもできる、リードとおやつを使う方法を紹介した。リードは左手で持つ。右手はおやつを持ち、左腰に置く。おやつを見せながら歩き、犬が付いてきたら、ほめておやつを与える。

張るのではなく、上に引くことで飼い主の指示をしっかりと伝えるよう説明した。

吉井さんは根気よく練習する必要性を説き「必ずしつけを成功させるという強い気持ちが必要」と真剣さが大事だと強調した。

最初は飼い主に甘えて飛びついたり付いて歩けない犬もいたが、何回か練習するうちに、おやつをもらえる行動が分かりかけた様子。座れ、待て、伏せでは講師がリードの使い方を実演。横に引

高橋務さん(68)＝花山町＝は2歳半のノーフォークテリア、虎鉄と参加。「(しつけが)自己流だと気付いた。教わったことを地道にやっていきたい」と話していた。



館林城ゆめひろば(旧市役所東広場)などで開かれている

市民に正しいしつけや飼い方を知ってもらいたいと初めて開催した。講師には群馬犬訓練研究会の訓練士の吉井彰さん(前橋市)と野本康伸さん(栃木県足利市)の2人を迎えた。